

岐阜県 伝統民俗芸能大会

世界が認めた岐阜の宝もの

入場無料

整理券をお持ちの方から
優先して入場いただけます。

11月10日(火)より配布開始

直接受け取る場合「岐阜県教育文化財団企画運営課」
郵送の申し込み 岐阜県教育文化財団企画運営課

〒502-0841 岐阜市学園町3-42 ぎふ清流文化プラザ1階
TEL / 058-233-5810



八幡鳳凰臺屋台囃子保存会 (高山市)



平瀬獅子舞保存会 (白川村)



郡上おどり保存会 (郡上市)



広岡町広友会 (美濃市)



岐阜歌舞伎保存会 (岐阜市)

日時

平成27年12月6日(日) 14時開演
(13時30分開場)

会場

ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール
岐阜市学園町 3-42

岐阜県伝統民俗芸能大会 民俗文化財の視点から

高山祭の屋台行事

国指定無形民俗文化財

指定年月日 昭和54年2月3日

八幡鳳凰臺屋台囃子保存会(高山市)

はちまんほうおうたいやたいばやしほぞんかい

高山祭は、春の日枝社社の山王祭と秋の桜山八幡宮の八幡祭の総称である。町を南北に二分して春秋に行われる十数基ずつの華麗な屋台の練行列は、国内有数の山車祭として知られている。春の山王祭は、4月14日の試楽祭と15日の本楽祭とからなる。試楽祭には全屋台が所定の場所に曳き揃えられる。また、神輿を中心に祭行列が町々を練り歩くほか、鬮籠楽や獅子舞等が行列に華を添える。夜には、屋台に提灯が灯され町を曳き廻しが行われる。本楽祭にも再び屋台の曳行があり、神輿還御とともに屋台の曳き別れとなる。秋の八幡祭は、10月9日の例大祭に御神幸、屋台の巡行があり、夜には全屋台の曳き廻しと曳き別れを行う。10日には再び御神幸と屋台の曳き揃え等が行われ、夕刻曳き払いとなる。屋台23基は、江戸時代後期に発達した祭屋台の典型として国の重要有形民俗文化財に指定されている。今回出演の鳳凰台組は、全屋台中最大の彫刻をもつ屋台を要する台組である。しばらくの間、お囃子の継承が危ぶまれたが、平成7年ごろより地元小中学生への伝承に力を入れ、今日のようなすばらしいお囃子が聞ける屋台組となった。伝承が順調に進んでいる台組である。

郡上踊

国指定無形民俗文化財

指定年月日 平成8年12月20日

郡上おどり保存会(郡上市)

ぐじょうおどりほぞんかい

郡上踊は、寛永年間(1624~44)、郡上の時の藩主遠藤慶隆但馬守が士農工商の融和を図るために催したのに始まったとされている盆踊である。現在、この踊りは、8月13日から16日の盂蘭盆の徹夜踊を中心に、7月中旬から9月上旬にかけて、各町の神様の祭礼、仏様の供養の日に踊られる縁日踊、その他が次々と練り広げられる。各地からも多くの人々が参集する著名な盆踊であり、ことに徹夜踊のときは賑わいが最高潮に達し、一つの音頭屋台を踊りの輪が何重にも取り巻き壮観を極める。この踊りは以前は歌だけで踊られたものだが、今は、音頭屋台上の大小太鼓・笛・三味線・拍子木の伴奏に合わせて踊られている。伝承曲は、「古調かわさき」「かわさき」「三百」「春駒」「猫の子」「さわぎ」「甚句」「げんげんばらばら」「ヤツチャク」「まつさか」であり、踊り手の仕度は思い思いで、頬かぶりあり、尻はしよりありで、下駄ばきである。語り物口説きの音頭で踊られるものあり、甚句で踊られるものあり、また、きびきびとした手振りですピーティーに踊るものもあれば、ゆっくりとしたリズムのものもある。さらに音頭に対して踊り手が返し歌をしたり、囃子言葉で応じたり等して、全体としてバラエティーに富んだ内容豊富な盆踊である。この郡上踊は、我が国を代表する盆踊の一つとして芸能史上とくに重要なものであり、また、美濃北部山村の豊富な民謡を背景にした独特の手を伝えているなど、地域的な特色の顕著な盆踊である。

白川村の獅子舞

岐阜県指定無形民俗文化財

指定年月日 平成7年11月21日

平瀬獅子舞保存会(白川村)

ひらせししまいほぞんかい

白川村の獅子舞は、舞い手が油筆の中に四人入って八本足となる百足獅子とよばれるもので、全国の獅子舞の中でも特異な形態である。剣と長刀などを持った1人から3人の少年が獅子と闘い退治するものである。獅子は退治する子供をシントリまたはハナトリという。シントリは、5・6歳~12歳までの少年が2人1組又は3人1組となる。衣装は袂の着物に野袴・胸当・白鉢巻や毛冠をつけ、たすき・小手・白足袋・草鞋ばきが通常の姿である。シントリの持つ道具をトリモノというが、トリモノには棒・長刀・太刀・鎖鎌・御幣・サイなどがある。舞の演目は、姫獅子と呼ぶ悪魔祓いの七つの舞と雄獅子という十種の舞がある。雄獅子は獅子退治の舞であり、シントリが1人から3人で太刀などの獲物で獅子に立ち向かい、これを仕留めて喜ぶものである。現在、白川村の獅子舞は、平瀬・木谷・荻町・鳩谷・飯島・やまが、小白川の七つの保存会により伝承されている。資料や伝承されている由来などから山下大和守による獅子舞の奉納をその最初と考えたり、あるいは、安政7年(1860)に高山より移入したとの説もある。しかし、獅子舞の形態や演目、道具等から氷見・礪波獅子と同一の文化を有する時期があったと考えられ、その後、高山方面から金蔵獅子が重層して、現在の白川村の獅子舞になったと考えられる。平瀬地区は南部に位置する集落で、上記の要素がよくみられる獅子舞である。

美濃流しにわか

岐阜県指定無形民俗文化財

指定年月日 平成8年7月9日

広岡町広友会(美濃市)

ひろおかちょうこうゆうかい

美濃のにわかは、文政(1818~1830)年間に港町若衆連の帳面にその記録がみられることから、江戸時代後期にはこの地に伝わったものと考えられる。にわかには旧暦8月1日から八幡神社祭礼の一環として、囃子と共に練習し、14・15日の例祭日に披露されたと伝えられる。囃子には春道・音羽屋・十日恵比寿・数え唄などの曲目がある。囃子の主体は明治・大正時代には大太鼓・小太鼓・笛であったものが、その後三味線の比重が大きくなった。現在の囃子の音程は昭和30年(1955)を境に一段低いものに変わったとされる。現在の例祭は4月第2土・日曜日に変更されている。にわか車に松を立て、笛・太鼓・鼓・三味線の囃子と共に町内を練り歩き、定められた場所では、見物人が丸く囲むなかでにわかを演じられる。まず、拍子木を打ち「東西、トーザイ、この場合おん目にぶらさげますのは『にわか』の標題(中略)まずは口上、後はなにやらかやらかめちやくちやのはじかまり、東西、トーザイ」と口上を述べ、次いで演技、落ち、引き上げの掛け声「エッキョウ」と、4つの部門で構成されている。美濃にわかには、時事風刺のきいた即興であること、その年一度限りで再演を禁止すること、口上から引き上げ掛け声まで演出が定型化していること、落ちによってそのにわかを評価すること、囃子が必ずつくことなど、美濃に伝わった当初の形態を残しつつ今日に至っている。広岡町は、例年上位を占め、定評のある町内である。

地歌舞伎

岐阜歌舞伎保存会(岐阜市)

ぎふかぶきほぞんかい

延宝4年(1676)伊奈波満願寺で官許を得て始った「岐阜座」による人形浄瑠璃や歌舞伎は岐阜町のみならず県内各地で明治末年まで盛んに興行が行なわれ、また、戦前までは4月の岐阜祭の宵宮において町衆による俄芝居も盛んに演じられた。保存会では現在、戦前の俄芝居を再生した岐阜町若旦那会による「岐阜まち歌舞伎」の構成・指導、また、岐阜座による歌舞伎や下座音楽(歌舞伎音楽)の研究と伝承・育成を行っている。

今回はぎふ清流プラザの開場の際に、舞台の柿落としや幕明けには欠かせない演目で五穀豊穡・国土安穩を祈念する「雛鶴三番叟」をぎふ子ども鼓・太鼓教室の受講生による小鼓・大鼓・太鼓の演奏でお送り致します。また、歌舞伎を彩る『おと・いろ・わざ』と題して、舞台の情景や人物の心情を音で表す黒御簾音楽、役者を映えさせる隈取りなどの化粧、歌舞伎特有の振りや動きなどについて実演を交えてワークショップ形式で解りやすくお話し致します。

【問い合わせ】

公益財団法人 岐阜県教育文化財団
TEL: 058-233-5810
FAX: 058-233-5811

〒502-0841

岐阜市学園町 3-42 ぎふ清流文化プラザ 1 階
<http://www.g-kyoubun.or.jp/jimk/>

ぎふ清流文化プラザ
ともに、つくる、つたえる、かなえる

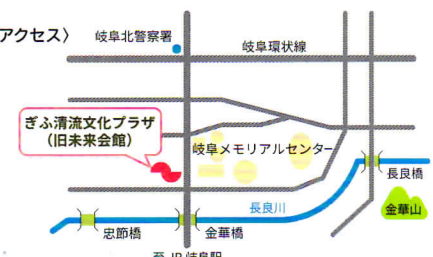
〈駐車場のご案内〉

- ぎふ清流文化プラザ駐車場(136台)
駐車料金/3時間まで100円 それ以降30分ごとに100円
※駐車場には限りがあります。

〈公共交通機関のご案内〉

- 岐阜バス
JR岐阜駅10番のりば または 名鉄岐阜(バスターミナル)Cのりば
[三田洞線] 市民会館 / 長良川国際会議場 方面行き
[K50 長良八代公園前] [K51 三田洞団地] [K55 彦坂真生寺]
より約20分。バス停「メモリアルセンター正門前」下車 徒歩1分。

〈アクセス〉



この事業は、岐阜県からの補助金を受けて実施しています。